

[博士論文審査要旨]

申請者：宛 悦 琪

論文題目 管理会計における因果関係論

審査員 尾畑 裕
中馬宏之
荒井 耕

近年、管理会計の領域では、バランスト・スコアカードの議論のなかで「因果関係」の意味についてヒュームを引き合いにだした論争も行われており、「因果関係」についての関心が高まっている。管理会計/原価計算の領域では、以前より、「因果関係」を意識した議論は存在していた。ただ、いかなる意味で「因果関係」という言葉を使うのかという点はあまり意識されてこなかった。そのような問題意識のもとに、本博士論文では、科学哲学における「因果関係」をめぐる議論のサーベイを行い、さらに、さまざまな管理会計/原価計算の領域における「因果関係」の意味を、その背景にある学問領域をもとに分類し、「会計理論における因果関係」、「工学的因果関係」、「心理学／行動学的因果関係」にわけて詳細に検討した。その検討を踏まえてバランスト・スコアカードにおける「因果関係」の意味を検討し、「主観的・探索的因果関係」と位置付けている。

本論文の貢献は以下の2点であると思われる。

第1に、管理会計/原価計算分野において使われてきた「因果関係」という言葉の意味には、会計独自の理論に基づくもののほか、工学的基礎をもつもの、心理学的基礎をもつものがあることを明らかにし、それぞれのもとに管理会計/原価計算の技法を整理したことである。とくに複式簿記の原理、費用収益対応の原則、原価計算における価値移転主義の考え方を「因果関係」の観点から根拠づける理論について詳細に検討している点は興味深い。「因果関係」をキーワードに、現在の管理会計/原価計算の諸技法が、会計理論に基づくものと他のさまざまな学問的背景をもったものから成り立っていることを明らかにしたことは評価できる。

第2に、管理会計/原価計算における「因果関係」に関する歴史的な検討をふまえたうえで、バランスト・スコアカードにおける「因果関係」の特殊性をあきらかにしたことである。歴史的な検討をふまえることにより、バランスト・スコアカードにおける「因果関係」の特殊性がより鮮明になったといえる。

本論文にも問題点がないわけではない。科学哲学における「因果関係」について詳細に検討しているが、そこでの検討が、かならずしもその後続く管理会計/原価計算における「因果関係」の検討に十分に生かされていない。管理会計の学問的性格をより意識した形で科学哲学の議論を整理する必要があったのではないと思われる。ただし、この問題点は、申請者の今後の研究にて克服可能なものであり、本研究の価値を損なうものではない。

よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第5条第1項の規定により一橋大学博士（商学）の学位を受けるに値するものと判断する。